

【主担当部局：県土整備部】

県民の皆さんとめざす姿（令和5年度末での到達目標）

東海環状自動車道や近畿自動車道紀勢線など高規格幹線道路の整備が進み、幹線道路やこれらにアクセスする道路等の整備、道路・港湾施設等の適切な維持管理に取り組むことで、県民の皆さんの安全・安心が高まるとともに、地域間の交流・連携が広がり、地域の経済活動が活性化しています。

主指標						
目標項目	令和元年度	2年度		3年度	4年度	5年度
	現状値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
県民生活の安全性・利便性の向上や地域の経済活動等を支援する道路の新規供用延長（累計）		7.4km		20.0km		29.6km
	—					
目標項目の説明と令和3年度目標値の考え方						
目標項目の説明	高規格幹線道路、直轄国道およびこれらと一体となった県管理道路の新規供用延長					
3年度目標値の考え方	令和3年の三重とこわか国体・三重とこわか大会の開催に向け、県内外の交流・連携を広げる道路ネットワークを形成するとともに、県民生活の安全性・利便性の向上をめざして、令和3年度までに20.0km新規供用することを目標値として設定しました。					

副指標						
目標項目	令和元年度	2年度		3年度	4年度	5年度
	現状値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
橋梁の修繕完了率		100%		100%		100%
	100%					
県管理港湾における岸壁等の更新実施延長（累計）		280m		340m		470m
	240m					

## 現状と課題

- ①令和3年度に開催される「三重とこわか国体」、「三重とこわか大会」および「第9回太平洋・島サミット」に向け、県内外からの来場者の安全性・利便性の向上を図るため、道路整備が急務となっているほか、快適かつ安全な移動を確保するため、適切な維持管理に努めていく必要があります。
- ②近年、デジタル技術や情報通信基盤の技術革新が進展するなか、道路の維持管理を取り巻く環境は大きく変化してきています。道路交通の円滑化、安全・安心の確保、維持管理業務の効率化等を図るため、交通状況や路面状況のモニタリング等にICTやAIなどの先端技術を活用していく必要があります。
- ③量的な道路整備が一定程度図られつつあるなか、自動車を中心とする交通円滑化や交通安全の推進だけでなく、地域の活性化や新たな生活様式の実現に向けた道路空間の再構築も進めていく必要があります。
- ④新名神高速道路の亀山西JCTにおいて名古屋方面と伊勢方面を結ぶランプウェイの完成による東名阪自動車道とのダブルネットワーク機能強化をはじめ、多くの幹線道路等の整備が進み、県民の皆さんの安全・安心を支えるとともに、地域の経済活動や国内外からの集客・交流等が促進されるなどの整備効果があらわれてきていますが、都市部における慢性的な渋滞の発生、近い将来に発生が懸念される南海トラフ地震等の大規模自然災害への備えなど多くの課題があります。このため、引き続き高規格幹線道路網の整備促進に重点的に取り組む必要があります。直轄国道においても、未事業化区間であった鈴鹿四日市道路が令和2年度に新規事業化されるなど、県内の幹線道路網の形成に向け大きく前進しましたが、未だミッシングリンクが残っています。さらなる整備促進を図るため、高規格幹線道路および直轄国道の開通見通しの早期公表や早期整備の必要性について、関係市町や地域住民、地元民間企業等と一体となって国等に要望していく必要があります。
- ⑤地域から高速道路ネットワークへのアクセスの向上を図るとともに、自然災害時の避難に資する県管理道路の整備を推進しています。また、地域ニーズにきめ細かに応えるため、待避所の設置など柔軟な対応を織り交ぜながら整備を推進しています。しかし、頻発する自然災害への備えや歩行者の安全確保など多くの課題が残されています。

引き続き高規格幹線道路や直轄国道の整備効果を最大限に生かす道路ネットワークの形成を図るとともに防災、安全に資する県管理道路の整備と、地域ニーズへの的確な対応に向けた県管理道路の整備を推進する必要があります。
- ⑥通行時の安全性・快適性の確保に向け道路施設のサービス水準を継続的に維持していくため、点検・診断・措置・記録のメンテナンスサイクルを確立し、計画的な修繕・更新を実施しており、舗装については、平成30年度に改定した「三重県道路舗装維持管理基本計画」の管理基準に基づく修繕を令和元年度より実施しています。また、通学児童や未就学児の安全確保を図るため、現地点検および対策を実施しています。

道路利用者が安全かつ安心に通行するためには、すべての道路管理者が連携してメンテナンスサイクルを継続的かつ確実に回していく必要があることから、今後も、計画的な修繕を進めるとともに、通学児童や未就学児の安全確保を図る必要があります。
- ⑦県管理港湾について、利用者の安全性や港湾の機能を確保するため、老朽化した施設を補修するとともに、大規模地震時の緊急物資輸送ルート of 機能を確保するため、臨港道路の橋梁の耐震対策を進めています。港湾は地域経済を支え、防災拠点としての役割を果たす必要があることから、引き続き、計画的かつ効率的な補修に取り組むとともに、緊急物資輸送ルートの機能を確保するための臨港道路橋梁の耐震化を進める必要があります。

## 令和3年度の取組方向

- ①「三重とこわか国体」、「三重とこわか大会」における会場へのアクセスルートとして期待される国道42号熊野尾鷲道路（Ⅱ期）（L=5.4km）および県道館町通線（御側橋）や県道上野大山田線等（L=2.1km）の供用をめざします。また、両大会のほか、「第9回太平洋・島サミット」に向けた維持管理についても、快適かつ安全な移動を確保するため、関係機関と連携・協議のうえ、舗装修繕や路面標示・除草など必要な対策を実施します。
- ②平常時はもとより感染症や災害の発生時においても、的確に情報発信等ができるよう、道路の利用状況等を迅速に収集把握するためのAIカメラ等を設置するとともに、官民連携による道の駅等へのデジタルサイネージの整備を検討します。また、道路等施設の状態を遠隔で把握し、迅速に適切な管理を行うことができるよう、スマートフォン等を活用したシステム等を構築していきます。さらに、加速する社会のデジタル化の動きをふまえ、路面標示の劣化状況の判定など、AI技術の導入に向けた課題や実用化等について検討し、管理の高度化、省力化をめざします。加えて、道路インフラ側から自動運転を支援する手法等について、先進事例を参考に検討していきます。
- ③津駅周辺において、地域を豊かにする歩行者中心の道路空間の構築や民間と連携した新たな交通結節点づくりを推進するため、津市や関係団体と連携して駅周辺の活性化や防災等さまざまな視点から駅周辺の道路空間の活用に関する基本的な構想をとりまとめ、整備方針や事業計画等の具体化に向けた検討を津市と協働して進めます。また、このプロジェクトをモデルとした道路空間の有効活用等について、県内各地への波及を検討します。
- ④産業活動や観光交流の拡大に伴い増加する交通需要への対応や交通渋滞の解消、成長力を強化する物流ネットワークの強化、地域のさらなる安全・安心の向上をめざし、新名神高速道路（6車線化）、東海環状自動車道、紀勢自動車道（4車線化）、近畿自動車道紀勢線等の高規格幹線道路や、北勢バイパス、中勢バイパス、鈴鹿四日市道路等の直轄国道の整備促進に向けた取組を推進します。具体的な取組として、沿線への企業進出件数などのストック効果の発現状況や観光集客への波及効果など、道路整備が確実に地域の生産性向上や地方創生に資することを示すなど、地域住民や企業等と連携し、国等に働きかけます。また、県内外の交流・連携を広げるため、道路ネットワーク機能の強化をめざし、鈴鹿亀山道路、名神名阪連絡道路の事業化に向け、国等と連携して調査・検討を進めます。
- ⑤高規格幹線道路や直轄国道の整備効果を最大限に生かす道路ネットワークの形成や緊急輸送道路等の整備を図るとともに、地域ニーズへの的確な対応に向けて、待避所の設置など早期に効果を発現できる柔軟な対応を織り交ぜながら、計画的かつ効果的・効率的な県管理道路の整備を推進します。令和3年度は、県道津久居線（久居工区）や県道伊勢大宮線（野添工区）等の供用をめざします。
- ⑥道路利用者等が安全・安心・快適に利用できるよう、橋梁等道路施設について、計画的な点検、効果的な修繕を行うとともに、極めて剥離が進んだ区画線の引き直しを継続的に実施するなど、適切な維持管理を進めます。また、道路施設の老朽化対策等を可視化する「維持管理の見える化」の取組を進めます。さらに、通学児童等の安全確保を図るための対策や、太平洋岸自転車道のサイクリング環境創出など、道路施設の機能向上を図ります。加えて、新たな価値の創出につながるよう道路空間の利活用の促進について検討します。
- ⑦港湾施設が将来にわたり必要な機能を十分発揮するよう、点検・補修等の維持管理を実施するとともに、津松阪港（大口地区、新堀地区）、宇治山田港および鶴殿港において老朽化対策を進めます。また、緊急物資輸送ルートの機能を確保するため、長島港において臨港道路橋梁（江ノ浦大橋）の耐震対策を進めます。

## 主な事業

- ①直轄道路事業【基本事業名：35101 高規格幹線道路および直轄国道の整備促進】  
予算額：(R2) 9,097,666千円 → (R3) 9,604,832千円  
事業概要：地方創生、国土強靱化に資する東海環状自動車道、「命の道」近畿自動車道紀勢線や北勢バイパス、中勢バイパス等の幹線道路網の形成を促進します。
- ②道路調査【基本事業名：35101 高規格幹線道路および直轄国道の整備促進】  
予算額：(R2) 20,550千円 → (R3) 20,550千円  
事業概要：鈴鹿亀山道路の事業化に向け、整備手法の検討を進めます。また、津駅周辺の道路空間の活用について、整備方針や事業計画等の具体化に向けた検討を進めます。
- ③道路改築事業【基本事業名：35102 県管理道路の整備推進】  
予算額：(R2) 10,050,134千円 → (R3) 12,235,620千円  
事業概要：三重とこわか国体・三重とこわか大会における会場へのアクセスルートなどの道路ネットワークの形成や第二次緊急輸送道路等の整備、地域ニーズへの的確な対応に向けて、計画的かつ効果的・効率的な道路整備を進めます。
- ④道路インフラメンテナンス事業【基本事業名：35103 適切な道路の維持管理】  
予算額：(R2) 2,372,487千円 → (R3) 2,525,918千円  
事業概要：道路利用者が安全・安心に利用できるよう、橋梁等道路施設について、計画的な点検、効果的な修繕を着実に進めます。
- ⑤道路維持管理事業【基本事業名：35103 適切な道路の維持管理】  
予算額 (R2) 6,525,233千円 → (R3) 6,617,410千円  
事業概要：道路利用者が安心・快適に利用できるよう、剥離が進んだ区画線については継続的に引き直しを実施するなど適切な維持管理に努めるとともに、太平洋岸自転車道のサイクルルート活性化に向けた整備などを進めます。また、AI技術等デジタル化による維持管理の高度化・省力化を目指すための検討を進めます。
- ⑥港湾事業【基本事業名：35104 県管理港湾の機能充実】  
予算額：(R2) 695,250千円 → (R3) 826,250千円  
事業概要：港湾施設の定期点検・補修を実施するとともに、岸壁等の老朽化対策を進めます。また臨港道路橋梁の耐震対策を進めます。